



|              |                                                                             |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| Title        | 成人病予防について                                                                   |
| Author(s)    | 百々, 英明                                                                      |
| Citation     | makoto. 1975, 10, p. 5-5                                                    |
| Version Type | VoR                                                                         |
| URL          | <a href="https://doi.org/10.18910/86230">https://doi.org/10.18910/86230</a> |
| rights       |                                                                             |
| Note         |                                                                             |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 成人病予防について

大阪府衛生部保健予防課

参事 百々英明

「成人病とは？」といわれ、

前だった。

あらためて手もとにあつた広辞苑をみる。「動脈硬化、高血圧、悪性腫瘍、糖尿病、肺気腫や骨の進行性変化など、老年期に問題とされる病気の総称。これらの疾患は、成熟の頂点を過ぎる頃に源が求められることが多いのでいう（第二版一二二四頁）。随分多くの病気を成人病としている。ところが一方「日本では、特に成人病という言葉がよく使われています。それは老年病といつても、死亡の上位三位を占める脳卒中、心臓病、ガンは、実はしばしば40才代、50才代の壮年期に発病するので、予防医学的な立場からいうと、むしろ壮年病ないし成人病という方が適切であるからといわれています」新版「家庭の医学」時事通信社、861頁2頁となっている。

一体ドッチが本当だろう？

大阪府が全国にさがけて、成人病対策にとり組み、その拠点として、府立成人病センターを建設したのは今から十六年も

当時、この施設の名をどうつけるか、関係者の間で大論争されたというのである。その時は、確か脳卒中、ガン及び心臓を総称した適切な語を求めて、「成人病」なる新語が誕生したと聞いている。

府立成人病センターが出来たころ、タクシーに乗り行先を運転手に言うとき、「へえーセイシン病のセンターがいつの間に来たんやろ？」といふかられたという。いささか笑話めいたことも度々あった、だが今日、あらためて「成人病予防はどうすれば良いか？」と問われれば、適確な解答はなかなか見つからない。

話にはわかるが、人間と伝染病との闘いの歴史をふりかえれば、多くの犠牲者の貴い代償の上に、細菌学、ウイルス学、免疫学、防疫学といった一連の学問の発達、行政として対策がとりあげられるまでに地道な積み重ねと絶えざる人々の努力があり、今

日の成果をみたものといえる。しかし伝染病に対する防疫にしても、最近の天然痘騒ぎや、東南アジア、インドなどのコレラなど、一寸油断すると大事に至ることを教えてくれている。

「成人病」の成因そのものが必ずしも明確になっているとは言いがた、そこにも伝染病対策の輝かしい成果とは異った難かしさがある。伝染病にしたつてつい近年まで、結核やハンセン氏病に対し、一般の人々の意識の偏見、誤った知識をもった人がいかに多かったかということを考えれば、成人病についての正しい認識をもってもらふことは並大抵のことでないことは想像されましよう。そこに原因がわかっていない一部分が多いとなると、なおさらの事といえる。とはいえ、成人病の犯人像が全然浮んでこないというものでない。疑わしき犯人を追って疫学的な追跡が、基礎臨床研究と共に続けられている。疫学的追跡とは、①病気の原因と

目される要因（因子）の地域差が著明で、それに応じた患者出現頻度差がみられる。②要因の濃度（要因と人との接触の密度）と、疾病出現の間に関連性が認められる。③犯人容疑者追放の結果、疾病が減少又は消失する、といった手法を人間の集団に対して適応し観察分析をしてゆく。

①の例として、日米での胃ガン、高血圧発生の頻度差、日系移民・ユダヤ人の居住地を異にするものの中での疾病像の違いなどがあげられ、②の例としては、発ガン物質の暴露期間、量とガンの発生との関係③の例として「禁煙」の効果などがあげられます。

沢山ある予防策のうち、身近かな問題で実行可能——それは心掛け次第なんです——なものとして、禁煙、減塩と定期検診受診の勧めの三つだけでも実行されては如何？

禁煙の勧め タバコの害を知っちゃいるけど止められない——確かに嗜好品にまでケチをつけられて何の生き甲斐ぞ、とお叱りの方もいるでしょうが、ただでさえ汚染されている空気を、濃密に肺内に「毒ガス」を意識的に吸入してのみならず周囲を汚染する。吸い殻ボーイ

街は汚れるし火事のもとともなる。動くアクセサリーとして宣伝し政府が専売品として国の財源にあてこんでおり全く困ったこと。肺ガンや心疾患とタバコのクサイ間柄は、禁煙によってこそ断ち切れるということとは、多くの事例が示している。

減塩の勧め 日本米がウマすぎる——これは確かに事実、世界旅行の機会の多くなった昨今、国外に出て米食を想う人のいかに多い事か。米食はとすると副食に塩分多いものを求め勝手となる。知らず知らずに塩分の摂取過剰——高血圧に陥る。敵将に塩を贈ったのは昔のこと、現代では減塩励行が成人病に降伏せぬ道。

定期検診の勧め 成人病は知らず知らずの間に進行して行くことが多く、自覚症が出てからでは遅い——愛車の車検を気にする以上に——御自身の異常をチェックするため、定期検診受診を夢お忘れなく。

多くのことがこれ以外にもあげられますが、とりあえず右の三つの勧めだけなりとも守っていただければ——効果は御自身の身でおたしかめいただけることでしょう。